



我オモウ、故ニ我アリ

I Think, Therefore I AM

Tomas Bodin 渾身のロックオペラ
「I AM」について、リリース前に行われた
インタビューです。
本人が語る「I Am」の正体は？

英語版World of Adventures 22号より

先日Tomas Bodinは、もうすぐInsideOutからリリースされる彼のエキサイティングなロックオペラ「I AM」について語ってくれた。

Q:「賢者は皆同じように考える」("Great minds think alike")とよく言います。PAIN OF SALVATIONのDaniel Gildenlowが「Be」と呼ばれるアルバムをレコーディングしているのを知ったときはどう思いましたか? 「I Am」という言葉で始まりますか?

Tomas Bodin (以下T): (大きく笑って) Danielにそれを話したとき、彼も大笑いしていたよ。僕は全然知らなかったんだよ! 全くの偶然としか言いようがないよね。それと同時に、良い偶然だと思ったんだ。1つのバンドにいる2人のメンバーが、似たようなアイディアに基づいて、似たような方

向性を持ちつつも違ったコンセプトアルバムをほぼ同時にリリースするというのは。だけど僕のCDはまた別の、違った経験だということだよ。

Q: あなたの「I Am」とPoSの「Be」の似たところは?

T: 全く無いよ! (笑) 僕達、二人とも神というもの扱っているけど、違ったアングルで見ている。「I Am」は一人の人間がAからBへと旅する過程を映し出している。「I Am」の話は、想像してみたいんだけど、宇宙のどこかに全ての魂が集まるところがあって肉体を探しているところから始まる。これは輪廻転生についての話なんだ。ある男の誕生から、人生に踏み出す第一歩があって、物事がクレイジーな方向へ行ってしまう、何とか正常に戻そうと努めて、そして成功していく。但し、すぐにはないよ。

でもしばらくしてから、また旅に出るんだ。それから彼は過去を見つめる場所に辿り着くんだけど、これは「I Am」の中で大きなパートを占めるんだ。彼は何が起こったのか理解しようとする。そして未来へと大きくジャンプして、今度はその男は死を迎える。死んでから宇宙へと行き(笑)、全ての魂が新しい肉体を求める場所へと行くんだ。AからBへと話が進み、またAへ戻るんだ。だから「Be」とは全く関係のないものなんだよね。

Q: Danielはインタビューで「I Am」という言葉からは全く宗教的な繋がりに気がつかなかった、と言っていました。それに関してナーバスになったりしましたか？

T: 宗教的な結びつきがあるのは判っているよ。そういうつもりだったしね。「I Am」という言葉の中には沢山の意味が含まれているけど、それでいて、とてもシンプルだ。だから、いや、ナーバスになっていないよ。

Q: Danielはインタビューの中で「Jesus Christ Superstar」に影響された、とも話しています。お互いのレコードで(アイデア等の)貸し合いをしていたんですか？

T: そう、彼が僕のを盗んだんだよ!(大きく笑う)とてもおかしいよね! いいかい、僕が14の時、1日に最低でも3回は「Jesus Christ Superstar」を聴いたもんだよ(笑)。あれはとてもホットなアルバムだったんだ! その時、Danielはまだ生まれていなかったはずだよ!(更に笑って)だから、僕の奥底に「Jesus Christ Superstar」があるのは間違いないよ。全曲よく覚えているよ。あのレコードを聴く時、ストーリーの纏め方が凄く好きだったんだ。まるで読書や演劇を観ているようだった。ただのアルバムじゃなかったんだよ。もっと違う何かで、それが好きだったんだ。だから当然、大きな影響を受けたよ。

Q: 「I Am」はあなたのほかのレコードとは違うと思いますか？

T: うん。僕が今までやってきた事とは全く違うよ。ストーリーの一部は僕自身や僕が経

験したことについてだ。それと同時に他の人にも理解できるように書いた。「うん、こういう気持ちはわかるよ」と言えるようにね。それが「似たような経験をしたことがあるな」とか。とてもパーソナルな視点から書かれているけれど、とても一般的な題材だと思う。歌詞から何か読んでみようか、もし良ければ？

Q: お願いします。

T: 「主役」である人物が始めにこう言う。

一日ごとに

僕は

この世界に生まれた

希望に満ちた優しい母は

彼女は愛は

僕の心を満たしてくれると

未来を夢見て

僕が勝者であると思い

神に祝福されて、彼女は言う

始まりから

上手くやってきた

支払いを済ませ

9時から5時まで働き

峠は越えたはずだ

そして僕の人生は過ぎていった

一日一日と

大体正しいことを行い、たまに間違いを犯し

何も言うことはない

ママは僕の名前を覚えているだろう

T: これが始まりだよ。生まれてからすぐに働いているんだ!(笑)人生って酷いよな!!

(ここでTomasは電話越しにサウンドサンプルを聴かせてくれた。私が聞く限りは、「The Prayer」はPINK FLOYDとYESのコンビネーションのようで、それでいてとてもTomas Bodinらしい。鐘を鳴らすようなピアノの音と悲しげな歌声にシンフォニックなサウンドが被さっていく。正にこう書くクラシックなロックオペラが出来あがっているようだ!)

T:「I Am」を書いている時、なるべく沢山の感情を込めるように努めた。歌詞はとても正直であろうと一生懸命だった。だから他の人達の反応にとっても興味があるんだよ。本当に、僕はこのCDが作れて誇りに思う。とても真っ直ぐで、とても僕自身なんだ。これを音楽に仕上げる事が出来てとてもハッピーだよ。

(Tomasはライナーノーツから謝辞を読み上げた)

T:「I Am」は隠された旅に敢えて出ようとする全ての人達に捧げる。「I Am」は自分自身を傷つけようとする行動パターンを打ち壊そうとする全ての人達に捧げる。「I Am」は不可能を信じる全ての人達に捧げる。そして、覚えておこう、「成し遂げるまではそのフリをしろ」。この意味は、もしも自分自身を傷つけようとする行動パターンを変えようとするならば、「正しいフリ」をしなくてはいけない。自分が「正しいと感じる」までは。何故なら、変える、という事はとても難しいから。僕にとってこのCDはある種の覚醒なんだ。それは、今なら僕は残りの人生全てにおいて、健康で特に大きな出来事がない限り、自分が重要だと思えるものを書き続けるということができるようになったから。単に音楽を作るために次のアルバムを作るわけではないんだ。もうその必要ないんだ。最初のCDは「誕生」のようなもので、それは成長するために必要だった。そして、自分自身にもっと自信を持って自分に何が出来るかを信じることだ。1996年に最初のCD「An Ordinary Night in My Ordinary Life」を作ったときは何が出来るのか本当にわからなかった。「Pinup Guru」もとても大きな経験だった。そして「Sonic Boulevard」で方向性が見えはじめ、何をみんなに見せたいのか判ってきた。この時作ったものにはとても満足しているよ。ピアノ曲の「Picture」で、感情を表現できたと思った。そし

て、言葉を足したらもっと僕が言いたいことが伝わるんじゃないかと思ったんだ。

Q:もう次のレコードの準備は出来ているのですか？

T:いや、特にはないんだけど、何をしたいかは判っている。今までにも話してきたけど、まずピアノのアルバムを出したい。アイデアは今まで出したTFKと僕のソロからのピアノ曲を集めたものを作る、というところから来ているんだ。そして新しいピアノ曲を作曲して一つの感じの良いパッケージに収めようと思うんだ。それから次のコンセプトアルバムがある。でもまだ何も話せることはないんだ。

Q:書き始めるときに、最初からテーマなりコンセプトがあるのでしょうか？それとも徐々に(テーマ等が)出来あがっていくのでしょうか？

T:場合によるね。「I Am」の時は、全てが少しずつ出来あがっていった。3週間で「I Am」の音楽を書き上げ、それから歌詞に取り組んだ。

Q:この新作を作るに当たって歌詞を書くのは容易でしたか？それとも「Rollin' the Dice」の時や他の曲を作るときと同じでしたか？

T:いや、本当に一生懸命やらなければならなかったよ。何種類かの歌詞のバージョンがあるんだ。ある意味、簡単ではあったんだ。肩のところにセンサーみたいなものがあって、僕のやることを逐一見て「それはまだ十分じゃないぞ!それじゃまるでクズだ!」って言うんだ。そんな感じさ。今回は何とかそのセンサーをクローゼットのどこかに隠すことに成功してね。そして、僕のやることをうるさく評価されることもなく仕事が出来た。最終的には自分のハートに素直に従って、ハートから手へ、手から紙へと伝わって行った。そして、それがとても正しいと思えたんだ。このレコードを作るのにこの6ヶ月、毎日10時間から12時間働いた。だから、このアルバムにはそれだけの労力が詰まっているのさ。沢山の

人が一生懸命働いているのは知っている。そして辛い事があるのを隠す人がいるのも知っている。そういう状況に押し込まれる代わりに自分のしたことに誇りを持つべきだ。そうやって学んだことに誇りを持つべきだ。何故なら、そうした状況から同時に誰かを助けているのだから。最近、僕はそういう風によく考えるんだ。誰も自分の中にそうした|ビエロ役|みたいなものを持っているんだ。|喜ばせなくてはいけない|と思う自分があるんだ。そうして愛してもらおう、話を聞いてもらおうとするんだ。自分の中にそうしたものを持つのは必要だと思う一方、ある特定の事に関しては自分自身に正直にならないといけないと思う。どんなに酷くてタフな状況でも、自分が今まで通ってきたことに対して恥ずかしいと思わないことだ。それが強さだと思うよ。

Q: |I Am| を製作中に何か面白いこととかありましたか？

T: うん。幾つか、あったよ…とても頭にくることがね! (笑) DHL という会社、知っているだろう? 2、3日以内にドアまで運んでくれる、っていう運送会社。エンドースを結んでいるアップルコンピューターからの製品を待っていたんだ。この新作のために新しいソフトウェアを送ってもらうはずだったんだ。だけど彼らはそのDHLを

使っちゃったんだよね…(笑) そうしたら、3週間もかかったんだぜ! |普通郵便|で送っていたほうがよっぽど早かったよ! (笑) まず、それが一つ。Anders (Jansson) とボーカル録りの為に一週間取ったんだ。そしたら、その週に7回も停電したんだぜ! 家中、真っ暗だよ。本当におかしいんだけど、まず月曜になって、僕は田舎に住んでいるから車で駅までAndersを迎えに行ったんだ。そして家に戻ってきてコーヒーを飲んで、|さて、始めようか|って言った途端に停電。言った途端にだよ! 結局、Andersをまた駅まで送り届けて|明日またやろう|って言って。そして翌日、またAndersを迎えに行き、家に着いてコーヒーを飲んだ。そしたら、また停電! 全くワケの判らない不思議な遅れが沢山出てきたよ。なぜ今回に限ってこんな事が起こるのか全く説明できないよ。何か抵抗しようとするものがあるみたいだった。それが何かはわからないけど、実際、レコード会社であるInsideOutに|この手紙が無事に何事もなく着けば良いと思うけど…このCDがクアラルンプールかどこかに行ってなくなってしまうかもしれない|って書いたんだ。だから、とても奇妙なことが幾つか起こったよ。最後には普通に返ってくれたけどね。全体的には、このプロジェクトで働くのは気持ちが良かったよ。

どんなに酷くてタフな状況でも自分が今まで通ってきたことに対して恥ずかしいと思わないこと、それが強さだと思う

